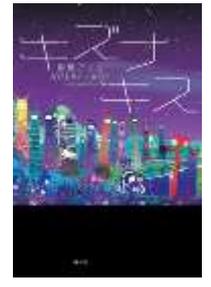


中学生におすすめしたい本20冊 第40号

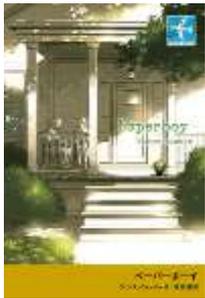
鶴ヶ島市立図書館

発行 令和元年 7月

	書名	著(編)者名	出版社/分類
1	マンガでわかる! 10代に伝えたい名言集	定政敬子/著 北谷彩夏/絵	大和書房/159サ
		いじめにあって、どうしていいかわからない。どうしても人に好かれたいと思ってしまう…。10代の若者たちの悩みにそっと寄り添う偉人の言葉や、同じような悩みで苦しんだ偉人のエピソードを漫画でわかりやすく紹介。自分が傷ついたり、落ち込んだりしたときに、自分で立ち直り、また人生を歩み出す勇気をもらえる1冊です。	
2	部長会議はじまります	吉野万理子/作	朝日学生新聞社/ヨシ
		文化部編と運動部編の2部構成である。文化部は「ジオラマ事件」の真相を探る話。運動部は第2体育館解体による各部の苦悩の話である。個性的な12人の登場人物が出てくるので、それぞれの人間模様を楽しむのもよし、謎解きを楽しむのもよし、様々な読み方のできる1冊である。	
3	ことばハンター 国語辞典はこうつくる	飯間浩明/著	ポプラ社/813イ
		国語辞典編纂者である著者は、人呼んで「ことばハンター」国語辞典に載せるべき新しい日本語を求めて毎日街に繰り出しています。「やばい」も「ガチ」も「ハンパない」も実は全部、国語辞典に載っているんです。こうしたことばはどのように選ばれ辞書に掲載されるのか?現代日本語を追いかけて奮闘する国語辞典編纂者のちょっと変わった日常を描いた“お仕事ノンフィクション”です。	
4	その景色をさがして	中山聖子/著	PHP 研究所/ナカ
		母親を亡くし祖父母とともに暮らす中学2年生のトーコ。母子家庭だったトーコは、病気療養中の母に優しくできなかったことを心のすみで悔やんでいた。そんなトーコが、母が「トーコに見せたい場所がある」と言っていたことを思い出す…。誰にでもきっとある心のもやもやした感じが描かれている。ラストが感動的。	
5	給食アンサンブル	如月かずさ/著	光村図書出版/キサ
		転校先に馴染むのを拒む美貴、親友の姉に恋をする満、孤独な優等生の清野…。悩みを抱く中学生六人の揺れる心が、給食をきっかけに変わっていく。やさしく胸に響くアンサンブルストーリー。読んだ後、前向きな気持ちになれる爽やかな青春小説です。	

6	<p>15歳のコーヒー屋さん 発達障害のぼくができることからぼくにしかできないことへ</p> 	岩野響／著	KADOKAWA／916イワ
7	<p>もしも世界に法律がなかったら 「六法」の超基本がわかる物語</p> 	木山泰嗣／著	日本実業出版社／320キ
8	<p>地図を広げて</p> 	岩瀬成子／著	偕成社／イワ
9	<p>トリガー</p> 	いとうみく／著	ポプラ社／イト
10	<p>キズナキス</p> 	梨屋アリエ／著	静山社／ナシ

	たまねぎとはちみつ	瀧羽麻子／作 今日マチ子／絵	偕成社／タキ
11		内気で素直な千春は小学 5 年生。ふとしたことで道のはずれにある修理屋のおじさんと知り合い、「今日はたまねぎ」「明日は、はちみつ」の合言葉でいつしか、親や友達に言えないことも話せる関係になっていきます。しかしそのお店にはかかわりの少ない同じクラスの俊太もいて…。三人の特別な 1 年をゆっくりと描いた物語。	
	夏の庭 The Friends	湯本香樹実／作	徳間書店／ユモ
12		三人の少年達は友人から死んだ人の話を聞いた。「死んだらどうなるんだろう」という素朴な疑問から、近所に住むおじいさんをこっそりと見張り始める。やがて見つかってしまうがそこから、おじいさんとの交流が始まる。おじいさんが教えてくれたのは、花の名前や花火の色、そしてもっとも大切なお話。かけがえのない夏休みの物語。	
	20歳のソウル 奇跡の告別式、一日だけのブラスバンド	中井由梨子／作	小学館／289.1 アサ
13		高校の吹奏楽部の部長だった大義は、誰にでも優しく慕われていた。19歳で癌を発症し20歳でこの世から旅立った。彼の告別式で164人の仲間が集まり演奏した実話である。彼は発病してからも気丈に生きるための努力をあきらめなかった。たくさんの人に愛され、勇気を与えた彼の生き方は、きっと大切なことを伝えてくれるだろう。	
	ようこそ、難民! 100万人の難民がやってきたドイツで起こったこと	今泉みね子／著	合同出版／334 イ
14		2015年の夏休み、マックスが出会った“言葉をなくした少年”は、シリアから逃げてきた難民だった。宗教や習慣への無理解、テロの恐怖から「難民は出ていけ!」とさげふ大人たち。意見が対立する中、マックスは心揺れつつも少年が描いた絵が頭から離れず…。大量の難民がおし寄せたドイツで実際に起きたできごとをモチーフに描いた物語。	
	また明日、君の隣にいたかった	鞠坂小鞠／著	アルファポリス／マリ
15		自分の死期がわかり人との関わりを避け、その日を迎えようとする高校生井萩文成に残された時間は半年間。「その時」を淡々と待つ彼の前に、日常を壊す少女が現れます。騒がしくて、自由奔放で、わずらわしい彼女に振り回される日々が始まりますが、次第に二人は惹かれあい…。感動の恋愛ファンタジー。	

	願いごとの樹	キャサリン・アップルゲイト／作 尾高薫／訳	偕成社／93 アツ
16		レッドは樹齢 216 年の木。町の人たちは毎年一度願いごとを結びつけにくる。それはある少女が「友達がほしい」という願いを結びつけたのがきっかけである。歳月が過ぎ樹が切り倒されることになった日、奇跡が起こるのであった。願いごとの樹として町の間人や動物たちを見守るレッドの目はいつも優しい。読後あたたかい気持ちになれる本。	
	レモンの図書室	ジョー・コットリル／作 杉田七重／訳	小学館／93 コツ
17		母を亡くし、ネグレクト気味の父と二人暮らしのカリプソは、ひとりぼっちで本の世界に入りこんでいた。母が遺してくれた「図書室」はカリプソの宝物だ。ある日、本好きな転校生メイがやってきてカリプソの日常は少しずつ変わっていくのだが、父が信じられないことをしてしまう。本でつちかった豊かな想像力と、篤い友情を武器に困難と戦う少女の姿を描く。	
	ぼくがスカートをはく日	エイミ・ポロンスキー／著 西田佳子／訳	学研プラス／93 ポロ
18		幼い時に両親を事故で亡くし、叔父家族と暮らす 12 歳のグレイソン。彼は“本物の女の子になりたい”という思いを隠して暮らしていたが、学校で演劇のオーディションが開催されることを知り…。「女神の役をやりたい！」自分らしく生きる道を選択したトランスジェンダーの少年の姿を描く。	
	ペーパーボーイ	ヴィンス・ヴォーター／作 原田勝／訳	岩波書店／93 ボタ
19		一九六〇年代のアメリカ。 吃音症の少年ヴィクターは友達の代わりに、新聞配達のア ルバイトを引き受ける。 博学で変わり者の老人や、家庭問題を抱える女性、黒人の 家政婦など、様々な大人と接して行く内に、少年は人の優 しさと不条理に触れ、成長していく…。	
	凍てつく海のむこうに	ルータ・セペティス／著 野沢佳織／訳	岩波書店／93 セペ
20		史上最大の犠牲者を出した海難事件「グストロフ号事件」を題材に第二次世界大戦末期の惨状を描く小説。 四人の立場が異なる若者達を主人公に、同時進行で煩雑に視点を切り替えながら進んでいく物語は、負け行く国の避難民に架せられた過酷極まりない状況をリアルに描いてゆき、戦争の無常を伝える。	